

令和3年度第1回熊本県看護対策検討会議

報告：木村浩美

日時：令和3年11月4日 午後3時

場所：ホテル熊本テルサ 2階

<内容>

1. 出席者の紹介

2. 報告：熊本県より

- ① 第7次熊本県保健医療計画の中間評価について
- ② コロナ禍における看護職確保の取り組みについて
- ③ 看護職キャリア支援事業（案）について

3. 意見交換

①

- ・コロナ禍で地元への就職は上がったが、定着率は上がっていない
- ・県内における看護職員数の地域格差をどう解消するか課題（阿蘇、水俣、天草）
- ・「くまもと復興応援ナース制度」は令和2年度で終了するが、「くまもと地域応援ナース」としてノウハウを生かしていく
- ・居宅介護の利用率は上がったが、今後更に在宅医療における訪問看護等の利用を向上させる必要がある
- ・在宅医療に従事する看護職の増員が必要
- ・特定研修など大病院の受講者は増えているが、在宅においては少ない
 - *資格を取っても収益に反映しない

②

- ・コロナワクチン接種などで多くの潜在看護職が働いたが、その数を医療機関の就業へつなぐことが課題
- ・看護学生の実習の場が減ったため臨床経験不足が懸念される～熊本大学と連携し研修を計画している

③

- ・令和4年4月に「熊本県看護職キャリア支援センター」を熊本大学病院に設置予定（県内15の地域医療拠点病院と連携）
＝地域間の看護分野・領域の枠を超えた看護力底上げと連携強化、地位の医療提供体制確保を図る

*県へ：課題についての具体策や取り組み等を提案してほしい